シリーズ・若者のひろば

— 若者たちの声のリレー —

「今の教育に必要なこと」

群馬県高校生会議（GHSC）
代表　小高広大（県立高崎高校 3 年）

高校生の力で群馬を元気に！

私は、「高校生の力で群馬を元気に！」を合言葉に活動を行う「群馬県高校生会議」の代表を務めさせて頂いております。群馬県高校生会議は、県内高校生の有志約 20 名が、学校の枠にとらわれず、高校生自身が群馬の将来や自分の将来についてディスカッションするイベントの企画・運営や、高校生自ら企画・運営する音楽系イベント、行政や地元企業からの事業委託等を受け、活動を行っております。活動に必要な資金は、県内の企業から協賛金として頂き、各機関への後援名義申請等もすべて高校生が行っています。

私は、群馬県高校生会議へ入団する以前は、地域や政治などを考えることは全くなく、一般の高校生と変わらない生活を送っていました。ですが、1 年次の 10 月に群馬県高校生会議へ入団し、活動の幅が広がり、考え方も変わりました。

何のために大学にいくのか？

他にも、私は 2 年の 12 月から 4 ヶ月間、東京の学生団体「NPO 法人 僕らの一歩が日本を変える。」に所属し、毎週末、東京へ行き活動をしていました。そこで、私は、地方の教育の遅れというものを感じました。東京の高校は、単に大学へ行かせるのではなく、何のために大学へ行くのか、しっかりと目的を持たせ送り出す傾向にあります。ですが、一方の地方は、大学入試で 1 点でも多くの点数をもぎ取るように指導する傾向にあります。今後の社会の流れを見た時に、私は前者の方が有効的であるのではないかと感じます。大学の入試制度、私立大学はもちろんのこと、東京大学が推薦入試を始めたことで他の国公立大学でも、多様化が進むのでないでしょうか。受け入れ側も、大学へ入学することを目的としている生徒よりも、解決したい課題の中で、大学でどう研究していくか、などを重要視している生徒を求める傾向にあります。また、入試の多様化はこれだけではありません。就職など社会で巣立つ時も、同様です。単に言われたことを、こなすだけでなくて、課題意識を持ち、主体的に取り組んで行かなければなりません。だからこそ、課題意識や当事者意識を持たせることが、最も良い教育なのではないかと考えています。

また、この話は、日本の学力の低下にもつながっています。日本の大学の論文被引用数を、各国と比べた際に減少傾向にあります。これは、当事者意識を持たず、何の課題意識も持たずに、大学へ入学すること自体が、入学の目的、動機となっていることを裏付けるものだと私は考えています。

18 歳選挙権の時代を迎えて

課題意識や当事者意識を持たせることは、昨年、社会の話題となった「18 歳選挙権」にも直結すると私は考えております。全国各地で行われた主権者教育は、“選挙の制度”“投票の仕方”を教えるものが大半でした。ですが、それらは、根本的な解決には全くなってないと思っております。確かに、選挙の制度や投票の仕方を理解することは重要なことです。ですが、今の高校生にはそれらよりも、当事者意識を持ち、社会へ課題意識を持つことが重要であると思います。もし、社会へ課題意識を持つことが難しければ、身近な地域などに疑問を感じることでも私はいいと思います。そして、群馬県高校生会議が目指していることはそこです。県内の高校生へ、考えるキッカケを提供しているのです。

Next Generation を活動の場に

「群馬県高校生会議」や「NPO 法人 僕らの一歩が日本を変える」などの活動は私に、大きな刺激を与え、私の姿を大きく変えました。そして、私は単なる机上の能力だけでなく、その他の学習を支援できる機関を作りたいのです。最終的には、持続可能なまちづくりへ繋げたい。

そのために、まずは、高校生や大学生に実践的な場を提供する「特定非営利活動法人 Next Generation（ネクスト ジェネレーション）」を立ち上げました。私個人の話となりますが、将来的には、海外の大学へ進学して学びたいと考えています。特に私は、スウェーデンなど北欧の教育や社会保障制度、若者の政治への関心度や当事者意識の高さに興味があります。先行している海外の制度を学び、それらを吸収し、県内で実践していく、それが私の目標です。

高校生はこれからの社会の担い手

◆2020 年には、大学入試センター試験が大きく変わります。高校入試も改革が行われ、社会の受け入れ態勢も変わりつつあります。また、現在の社会では、人工知能をはじめとしたコンピュータが力をつけ、単純な動作、仕事は機械へと変わりつつあります。私は、この時代の中で、教育が変わらないことに危機感を感じております。大げさに言えば、人間が人工知能に支配されてしまうのではないかと、私は思います。今後の社会に必要な力は、課題意識を持ち解決に向けて取り組んでいくこと。だからこそ、これからの社会の担い手である高校生へ、考える場を提供して欲しいと私は思います。